

実は日本マラソン発祥の地 大阪 ～1909年マラソン大競走～

高木 昌之

【目的】

『2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会』に向け、俄然注目されるようになったマラソン。2019年（平成31年・令和元年）から2020年（令和2年）にかけても、マラソン選手が主役のNHK大河ドラマの放映、マラソングランドチャンピオンシップ（MGC）での東京五輪代表決定、東京五輪マラソン競技の突然の札幌移転、厚底シューズ効果による劇的な記録更新、更には大阪にゆかりのある選手の五輪女子マラソン代表内定など、話題には事欠かない。こうした状況を鑑み、大阪とマラソンとの関わりについて、今一度見直す必要性を感じた。

大阪では現在行われている『大阪マラソン』『大阪国際女子マラソン』等以外にも数々のマラソン大会が開かれてきた。中でも、日本初のマラソンと言われ1909年（明治42年）に神戸～大阪間で開催された『マラソン大競走』に焦点を当ててみたいと考えた。なぜなら、スタート地点の神戸が既に「日本マラソン発祥の地」を名乗っているのに対し、ゴール地点の大阪ではその存在すら殆ど知られていないからである。

研究を通じ、大阪もまた「日本マラソン発祥の地」であることを発信し、大阪人のスポーツへの関心をより一層高めていきたい。

【内容】

『マラソン大競走』を、その開催のきっかけとなった1908年の「ロンドン五輪」まで遡り、当時の新聞記事等から正確に復元すると同時に、コースの現況も確認する。

その過程で、『マラソン大競走』と大阪との関係性を考察し、大阪が「日本マラソン発祥の地」に相応しいかどうかを検証する。

【結果】

『マラソン大競走』では、スタート地点の神戸より、むしろゴール地点の大阪に重きを置いて開催されていたことが明らかとなった。コースの距離に不足のあることが判明した際も出発点の変更であっさり解決が図られたことや、大会に関するセレモニーのほとんどが大阪で開催されたことなどがその理由である。

「日本マラソン発祥の地」としては、時間軸という観点ではスタート地点の神戸が、大会という観点では大阪が、それぞれ相応しいとの結論に達した。

また、当時のコースを正確に復元していく過程で、公表されていた約31.7kmよりも実距離の方が長かった可能性のあることも判った。もしこれが正しければ、当時の日本人は初マラソンで世界に伍する好記録を出していたということになる。

1. 日本最初のオリンピック報道

日本初のマラソンと言われる『マラソン大競走』が行われる前年の1908年（明治41年）に『ロンドンオリンピック』が開催された。もちろん日本人選手はまだ参加していない。

後に衆議院議員や俳人として活躍する相島勘次郎は、大阪毎日新聞社通信部長時代、博覧会の取材に訪れていたロンドンでこのオリンピックを目の当たりにし、大いに興奮した。とりわけマラソンの魅力に強く取り憑かれた。

相島は、帰国後の1908年（明治41年）9月7日（月）から12日（土）まで（8日（火）を除く）の5回にわたり、「大阪毎日新聞」の紙面に「マラソン競走」と題し、ロンドンオリンピックマラソン競技のことを書いている。『ロンドンオリンピック』の概要やマラソンの歴史紹介を織り交ぜながら、猛暑により棄権者が続出したことや、「ドランドの悲劇」と呼ばれるゴール直前での出来事、街の盛り上がりなどが、臨場感をもって描写されており、その上で「日本も一等国に列するには国際五輪委員会に加わり選手を送るべき」と結論付けている。

これこそが我が国最初のオリンピック報道である。

この報道がひとつの契機となり、「次回のマラソン国際的大競走に日本選手を出す準備」として、大阪毎日新聞社が『マラソン大競走』を開催することになるのである。

2. 日本初のマラソン大会『マラソン大競走』の概要

『マラソン大競走』は、1909年（明治42年）3月21日（日）に開催された。“阪神間20哩（マイル）長距離競走”の別称のとおり、神戸湊川埋立地～新淀川西成大橋東端の約32kmで行われた。

申込者は408名にのぼったが、書類選考で残った151名を対象に3月13日（土）に中の嶋公會堂で体格検査（131名が参集）を行い128名に絞り込んだ。翌14日

（日）には、鳴尾關西競馬倶楽部會場で10哩（約16km）の予選競走会を行って本選参加者20名（各組上位5名×4組）を選抜した。予選競走会には約6万人もの観衆が押し寄せ、關西競馬倶楽部始

まって以来の入場者数となった。予選第1位は1時間4分35秒を記録した19歳の神戸市学生の井上輝二。ちなみに、NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」に登場した日本初の五輪選手・三嶋彌彦は、下馬評は高かったもののろ組6位で予備選手となり、本選に進むことはできなかった。

3月21日（日）には『マラソン大競走』の本選が行われ、20名の選手は11時30分33秒に出発点の神戸湊川堤防をスタート。途中、6哩（約10km）地点の御影では兵庫県在郷軍人の加嶋政義が先頭に立ったものの、11哩（約18km）地点の西宮からは岡山県在郷軍人の金子長之助がトップを守り続け、2時間10分54秒で新淀川の決勝点にゴールイン。最終的に18名が完走、2名が途中棄権した。



マラソン大競走記念繪葉書（筆者所蔵）
三枚一組で販売されたもので、本選ではなく鳴尾關西競馬場で行われた予選の写真と思われる。

3. 大阪が発祥の地と名乗るに相応しい理由

現在、神戸市役所前に「日本マラソン発祥の地神戸」の記念碑が建てられ、「日本マラソン発祥の地」は神戸ということになっている。日本で「マラソン」という名称を初めて使った大会がこの『マラソン大競走』と言われており、時間軸で見ればそのスタート地点が湊川埋立地であったことから、これは正しいと言える。

だが、大会そのものは大阪に重点を置いたものであった。

①ゴール地点ありきの大会

大会8日前の3月13日（土）に、神戸方のスタート地点がそれまで公表されていた元居留地東遊園地から湊川埋立地に変更された。改めてきちんと測量し直したところ、予定していた20哩に2哩20鎖（チェーン）不足していることが判明したからである。1哩は約1,609m、1鎖は約20mだから、約3.6km足りなかったことになる。一方、大阪方のゴール地点である新淀川西成大橋からの変更については議論された形跡すらない。

当時の状況をみると、1908年（明治41年）12月に西成大橋が竣工し、翌1909年（明治42年）6月に淀川改良工事竣工式が行われている。大阪にとって大変重要でかつ国家的大事業でもあった新淀川開削のお披露目が、この大会が果たすべき役割のひとつだったことは明白である。ゴール地点を動かすという選択肢は元々なかったのである。

1909年（明治42年）3月2日（火）付「大阪毎日新聞」では、「虹のごとき長橋上、花やかなるユニホーム着けたる優勝選手が奔馬空を切るの概を以て決勝点に入らんとする刹那の壮観」と、西成大橋が到着地点として絶好の場所であることを強調している。同月22日（月）付「大阪毎日新聞」では、これこそがまさに一番欲しかった画だと言わんばかりに、西成大橋をトップで走りゴールへ向かう金子長之助の雄姿が堂々と掲載されている。

②多彩なセレモニーの開催

『マラソン大競走』では競技以外に様々なセレモニーも行われた。

神戸では、スタート時に、兵庫県知事の演説と神戸市長のテープカットが行われ、楽隊が演奏し数十発の花火が打ち上げられた。

一方、大阪でも、ゴール時に軽気球と花火の打上げが行われたが、それだけにとどまらず引き続き多種多彩な催しが繰り広げられた。

選手たちは、最寄りの淀川駅から梅田駅まで阪神電鉄の花電車に乗車。梅田からは大阪市電の花電車に乗り換え、難波下車後は人力車に乗って中之島まで楽隊付きのパレードを行った。その後、中之島の大阪ホテル大広間で祝宴が催されたのである。

以上2点から、競技においてもセレモニーにおいても大阪中心の大会であったと言えることができる。『マラソン大競走』を“マラソン大会”というイベントとして捉えるなら、まさに「日本マラソン発祥の地 大阪」なのである。

4. 記録的にも素晴らしい大会

これまで日本初のマラソン大会ということだけがクローズアップされてきた『マラソン大競走』であるが、実は記録的にも素晴らしい大会であった。

“阪神間20哩長距離競走”と言われるこの大会。正確には19哩56鎖95環（約31.7km）だったと言われている。ところが、今回そのコースを、1909年（明治42年）から1910年（明治43年）にかけて測量された大日本帝國陸地測量部の「2万分1正式図」を使って完全復元してみたところ、実際はもう少し長かったのではないかと疑念が浮かび上がった。

地図上で計測すると約 32.5km (20 哩 16 鎖 95 環) もある。マラソンの距離計測には最短コースを測るなどのルールがあるが、その誤差を勘案しても長い。大会直前の 3 月 13 日に距離不足によりスタート地点を変更するなど、当時の計測技術には不安があり、誤りがあった可能性は排除できない。

ここで、当時の世界のマラソンの記録との比較をしてみたい。距離、季節、コースがまちまちで単純比較はできないが、五輪など主な大会の記録を時速で表すと下表の通りである。ちなみに、現在の 30km ロードレースとマラソンの速度差は、日本記録では僅か 1.4%。世界記録では逆にマラソンの方が速いくらいである。(30km ロードレース：日本記録 1 時間 28 分 00 秒・世界記録 1 時間 26 分 45 秒／マラソン：日本記録 2 時間 05 分 29 秒・世界記録 2 時間 01 分 39 秒)

もし実際のコースが 32.5km あったと仮定すると、優勝した金子長之助は時速 14.9km を出していたことになり、直近の『ロンドンオリンピック』で優勝したトーマス・ヒックスの時速 14.4km を大きく上回っている。1911 年 (明治 44 年) に『ストックホルムオリンピック大会予選会』で金栗四三が出した時速 15.8km を含め、日本長距離陸上界は相当な潜在能力を持って世界に臨んだことが窺える。

20 世紀初頭開催の主要マラソン優勝者等時速一覧

記録年	大会	開催国 開催場所	順位	選手名	国籍	記録 (h:m:s)	距離 (km)	時速 (Km/h)
1909	マラソン大競走	神戸ー大阪間	優勝	金子長之助	日本	2:10:54	31.723	14.54
							32.528	14.91
1904	セントルイス五輪	アメリカ	優勝	トーマス・ヒックス	アメリカ	3:28:53	40.000	11.49
1908	ロンドン五輪	イギリス	優勝	ジョニー・ヘイズ	アメリカ	2:55:18	42.195	14.44
1912	ストックホルム五輪	スウェーデン	優勝	ケネス・マッカーサー	南アフリカ	2:36:54	40.200	15.37
1920	アントワープ五輪	オランダ	16 位	金栗四三	日本	2:48:45	42.750	15.20
1911	ストックホルム五輪 予選会	羽田運動場	優勝	金栗四三	日本	2:32:45	40.234	15.80

5. 待ち望まれる「日本マラソン発祥の地 大阪」の碑の建立

『マラソン大競走』開催から 17 年経った 1926 年 (大正 15 年)、西成大橋は役目を終え、すぐ上流側に淀川大橋が架けられた。その淀川大橋は現在大規模修繕工事中である。完工 (2020 年 (令和 2 年) 8 月末予定) した暁には、この素晴らしい大会を顕彰し、淀川大橋東詰すぐ下流側の以前西成大橋が架けられていたあたりに、「日本マラソン発祥の地 大阪」の碑をぜひ建立してもらいたいものである。



「日本マラソン発祥の地 大阪」の碑
(イメージ)

◆参考文献等

『大阪毎日新聞』(1908~1909) 大阪毎日新聞社、2 万分 1 正式図『神戸』(1913) 大日本帝國陸地測量部、2 万分 1 正式図『御影』『西ノ宮』『大阪西北部』(1911) 大日本帝國陸地測量部
Web (2020/02/29 アクセス)
毎日新聞オリパラこぼれ話<<https://mainichi.jp/articles/20191126/k00/00m/050/152000c>>
時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」<<http://ktgis.net/kjmapw/>>
日本陸上競技連盟公式サイト<<https://www.jaaf.or.jp/>>
Track and Field all-time Performance<<http://www.alltime-athletics.com/>>
SPORTS REFERENCE OLYMPIC SPORTS<<https://www.sports-reference.com/olympics/>>
金栗四三生家記念館<<http://www.kanakurishiso.jp/>>
公益社団法人日本スポーツ協会<<https://www.japan-sports.or.jp/>>
国道 2 号線淀川大橋床版取替他工事情報発信サイト<<http://yodogawa-ohashi.com/index.html>>

マラソン大競走《1909年（明治42年）3月21日（日）開催》コース図およびレース状況（1）【現兵庫県神戸市および芦屋市部分】

大阪府立大学研究推進機構大阪検定客員研究員 高木 昌之

レース状況（1）

予選競走および出発点						神戸電車停留場		御影（六哩）				芦屋永保橋			
出発点からの推定距離（1位選手の时速）						1.2km		9.6km（湊川御影間 11.7km/h）				14.6km			
全体順位	組別順位	氏名	年齢	職業	目印番号	出発時刻（時・分・秒）	順位	氏名	変動	順位	氏名	通過時刻（時・分・秒）	変動	順位	氏名
1	い1	井上 輝二	19	神戸市学生	3	11.30.33	1	井上 輝二	↑	1	加嶋 助義	12.20.00	↑	1	井上 輝二
2	は1	加嶋 助義	26	兵庫県在郷軍人	10	11.30.33	2	加嶋 助義	↓	2	井上 輝二	12.20.00	↑	2	金子長之助
3	い2	金子長之助	27	岡山県在郷軍人	4	11.30.33	3	金子長之助	↑	3	菅野 新七	12.21.00	↓	3	加嶋 助義
4	は2	富士谷彌平	30	徳島県商人	17	11.30.33	4	富士谷彌平	→	4	富士谷彌平	12.21.00	→	4	富士谷彌平
5	ろ1	関口 義夫	19	姫路師範選手	13	11.30.33	5	菅野 新七	↑	5	小路 五一	12.21.00	↓	5	菅野 新七
7	に1	佐藤 朗	25	大分師範学生	5	11.30.33	6	小路 五一	↑	6	関口 義夫	12.21.20	↓	6	小路 五一
8	い4	野中 良民	25	京都医科大学学生	12	11.30.33	7	関口 義夫	↓	7	金子長之助	12.21.50	↓	7	関口 義夫
9	い5	宮脇浅次郎	29	大阪府農業	11	11.30.33	8	長阪嶋三郎	→	8	長阪嶋三郎	12.22.00	→	8	長阪嶋三郎
10	ろ2	福田加壽衛	22	岡山学生	20	11.30.33	9	福田加壽衛	→	9	福田加壽衛	12.22.10	→	9	福田加壽衛
11	は3	菅野 新七	27	東京高等師範学生	9	11.30.33	10	佐藤 朗	↑	10	関口 吉雄	12.22.50	↑	10	佐藤 朗
12	ろ3	林 鎌次郎	18	愛知第一中学選手	7	11.30.33	11	野中 良民	↓	11	佐藤 朗	12.23.00	↑	11	野中 良民
13	ろ4	古橋猶三郎	18	愛知第一中学	2	11.30.33	12	佐野亥之助	→	12	佐野亥之助	12.23.50	→	12	佐野亥之助
14	に2	小路 五一	22	姫路師範学生	16	11.30.33	13	奥田 茂平	↓	13	野中 良民	12.23.58③	↑	13	奥田 茂平
15	ろ5	奥田 茂平	24	大阪タイムス社	6	11.30.33	14	古橋猶三郎	↓	14	奥田 茂平	12.24.00	↑	14	古橋猶三郎
16	に3	関口 吉雄	21	茨城学生	8	11.30.33	15	林 鎌次郎	↑	15	平林四三衛	12.24.20	↑	15	林 鎌次郎
17	に4	長阪嶋三郎	24	愛知県知多教育会選手	15	11.30.33	16	平林四三衛	↑	16	宮脇浅次郎	12.24.40	↓	16	平林四三衛
18	は4	土田新太郎	23	東京法科大学学生	19	11.30.33	②	関口 吉雄	↓	17	古橋猶三郎	12.24.50	↓	17	関口 吉雄
19	は5	東野 丈夫	24	大分師範	1	11.30.33	②	宮脇浅次郎	↓	18	林 鎌次郎	12.24.50	↓	18	宮脇浅次郎
20	に5	平林四三衛	27	愛知県知多教育会選手	18	11.30.33	②	東野 丈夫	→	19	東野 丈夫	12.37.00	→	19	東野 丈夫
①	い6	佐野亥之助	22	大阪成器商業卒業	14	11.30.33	②	土田新太郎	↓	×	土田新太郎	都賀浜村で落伍			

- ①予選競走でい組3位（全体6位）だった土平知多一（25歳、愛知県商業）が辞退したため予備選手い組第一候補の佐野亥之助が繰り上げ出場。
- ②1909年（明治42年）3月28日付大阪毎日新聞「選手出走表」では、東野丈夫、宮脇浅次郎、関口吉雄は「-」、土田新太郎は「落伍」と記載されている。
- ③1909年（明治42年）3月28日付大阪毎日新聞「選手出走表」では「12.23.08」と記載されているが、順位からすると誤記と思われるため推定。



マラソン大競走《1909年（明治42年）3月21日（日）開催》コース図およびレース状況（2）【現兵庫県西宮市および尼崎市・大阪府大阪市部分】

大阪府立大学研究推進機構大阪検定客員研究員 高木 昌之



レース状況(2)

西宮(十一哩)			尼ヶ崎(十六哩)			巽橋と西成大橋との中間			西成大橋詰			決勝線					
17.8km(御影西宮間25.3km/h)			26.4km(西宮尼ヶ崎間12.5km/h)			29.0km			31.1km			31.7km(尼ヶ崎決勝線間15.4km/h)			(14.5km/h)		
変動	順位	氏名	通過時刻(時.分.秒)	変動	順位	氏名	通過時刻(時.分.秒)	変動	順位	氏名	変動	順位	氏名	よみがな	到着時刻(時.分.秒)	競走時間(時.分.秒)	
↑	1	金子長之助	12.39.17	→	1	金子長之助	13.20.45	→	1	金子長之助	→	1	金子長之助	かねこ ちようのすけ	13.41.27	2.10.54	
↓	2	井上輝二	12.39.18	→	2	井上輝二	13.23.08	↑	2	小路五一	→	2	小路五一	しょうじ ごいち	13.46.16	2.15.43	
→	3	加嶋助義	12.39.20	→	3	加嶋助義	13.23.15	↑	3	富士谷彌平	→	3	富士谷彌平	ふじたに やへい	13.46.28	2.15.55	
→	4	富士谷彌平	12.39.26	→	4	富士谷彌平	13.24.00	↓	4	加嶋助義	→	4	加嶋助義	ながさか しまさぶろう	13.47.07	2.16.34	
→	5	菅野新七	12.39.29	→	5	菅野新七	13.25.20	→	5	菅野新七	→	5	菅野新七	かんの しんしち	13.47.12	2.16.39	
→	6	小路五一	12.39.29	→	6	小路五一	13.25.32	↑	6	長阪嶋三郎	→	6	長阪嶋三郎	かしま まさよし	13.48.36	2.16.39	
→	7	関口義夫	12.40.30	↑	7	長阪嶋三郎	13.26.10	↓	7	井上輝二	→	7	井上輝二	いのうえ てるじ	13.51.41	2.21.08	
→	8	長阪嶋三郎	12.42.08	↓	8	関口義夫	13.28.00	↑	8	野中良民	→	8	野中良民	のなか よしたみ	13.52.19	2.21.46	
→	9	福田加壽衛	12.42.10	→	9	福田加壽衛	13.29.10	→	9	福田加壽衛	→	9	福田加壽衛	ふるはし なおさぶろう	13.54.35	2.24.02	
↑	10	野中良民	12.43.41	↑	10	古橋猶三郎	13.30.05	→	10	古橋猶三郎	→	10	古橋猶三郎	ふくだ かずえ	13.54.50	2.24.17	
↑	11	佐野亥之助	12.44.14	↑	11	林鎌次郎	13.31.05	→	11	林鎌次郎	→	11	林鎌次郎	はやし かまじろう	13.55.24	2.24.51	
↑	12	林鎌次郎	12.44.34	↓	12	野中良民	13.31.40	↑	12	平林四三衛	→	12	平林四三衛	ひらばやし(名の読み不明)	13.56.13	2.25.40	
↑	13	古橋猶三郎	12.44.39④	↑	13	平林四三衛	13.32.30	↓	13	関口義夫	→	13	関口義夫	せきぐち よしお	13.59.44	2.29.11	
↑	14	平林四三衛	12.44.40	↑	14	佐藤朗	13.36.50	→	14	佐藤朗	→	14	佐藤朗	さとう ろう	14.03.34	2.33.01	
↓	15	奥田茂平	12.44.41	↑	15	関口吉雄	13.41.45	↑	15	東野丈夫	→	15	東野丈夫	ひがしの たけお	14.10.58	2.40.25	
→	16	佐藤朗	12.45.00	↑	16	宮脇浅次郎	13.44.29	→	16	宮脇浅次郎	→	16	宮脇浅次郎	みやわき あさじろう	14.11.52	2.41.19	
→	17	関口吉雄	12.47.10	↑	17	東野丈夫	13.44.30⑤	↓	17	関口吉雄	→	17	奥田茂平	おくだ もへい	14.13.40	2.43.07	
→	18	宮脇浅次郎	12.47.10	↓	18	奥田茂平	13.47.35	→	18	奥田茂平	→	18	奥田茂平	せきぐち よしお	14.14.43	2.44.10	
→	19	東野丈夫	12.57.20	↓	×	佐野亥之助	15哩地点で落伍						×	土田新太郎	つちだ しんたろう		途中棄権

④1909年(明治42年)3月28日付大阪毎日新聞「選手競走表」では「12.43.39」と記載されているが、順位からすると誤記と思われるため推定。
 ⑤1909年(明治42年)3月28日付大阪毎日新聞「選手競走表」では「13.43.30」と記載されているが、順位からすると誤記と思われるため推定。